只見短歌会　三月詠草

大塚栄一　指導

竹刀振る隣の孫を褒めやればはにかみながら笑顔を向ける　五十嵐夏美

残雪の多き庭地に日差し受け福寿草はや二輪咲き初む　関谷登美子

胸はずむ事などなくて冬の過ぎ春蒔き種の届き親しむ　馬場　八智

母に代り厨に立ちて早春の眩き光に背筋を伸ばす　新国由紀子

雪道に山蘭一つ見つけしを老いそめし身の喜びとする　小倉キミ子

内外の女孫二人の成人式晴着を纏ふ写真並べぬ　渡部ゆき子

庭隅の亀の形に似たる雪遊ぶ孫らのをらねば片す　古川　英子

雪水を含みし苔のさ緑に見入りてをれば媼も足止む　目黒　富子

耳遠く字幕頼れど半分も読めぬにテレビの画面は変はる　渡部ヨリ子

真冬には鳥の姿を見ざりしが春近くなりさへづり聞こゆ　新国　洋子

（出詠順）

只見俳句会　四月例会

目黒十一　指導

電柱に日毎減りゆく雪の嵩　リウコ

春の日や今年難なく生きんとす　修一

華やかにすっと立ちたる吊し雛　都

春ショール少し派手にと巻いてみる　一穂

納屋の戸をまだ開けきらず燕来る　洋子

谷の村花咲かせんと風集む　吉児

石仏の列あらたなる雪解かな　恒夫

雪壁の村から村へ繋がりて　邦男

きさらぎのダムに爪立つオリオン座　礼

開けはなす客待つ居間や暖かし　信

風光る黒板消しの軽さかな　順子

紅梅の光りのなかの捨て農地

涙しつ声高々と卒業歌

青空と雪壁映す水溜まり

蕾ある選んで植木市

列島は花の便りや会津雪

芳しき母子草餅只見郷

戦友の柩に別れ花樒

雛壇のごと軒下の雪の嵩

彼岸明けふき味噌香る朝餉かな

新幹線笑顔あふれて春が来た

桜舞う行きかう人も華やぎぬ